

【(8) 教材・教具】

⑦「ホワイトボードやカードを活用している」

《つまずきの背景》

- A 刺激の影響の受けやすさ、B 言語理解の困難さ、C 記憶力の弱さ、J 言語表現の困難さ、N 注意の持続の困難さ

《解説》

子ども一人一人がホワイトボードを持ち自分の考えを書くことにより、子どもたちの多様な意見を引き出すことができます。また、ホワイトボードは、書き直しが容易で小集団での話し合いをまとめて記録するのに有効な道具です。また、カード（フラッシュカード等）を活用することは、視線が集まりやすくなりキーワードの確認になります。

学級の中には、必要なことに注意を向けたり注意を持続したりするのが苦手な子どもがいる場合があります。ホワイトボードやカードを提示することで、注目しやすくなります。また、言葉で表現するのが苦手な子どもは、自分の考えなどを記入したホワイトボードを手掛かりにして発表しやすくなります。

ホワイトボードは、何度も書き直せる反面、学習の足跡を残しにくいという問題点があります。ノートと併用して考えをまとめさせたり、ホワイトボードに書いた内容を写真で残したりする工夫が必要です。カードは、よく使う用語をあらかじめ作り置きしておく教材作りの時間短縮になります。

【工夫点】

- ・大切な用語をカードにする。（小中高 工夫例 57）
- ・小集団で話し合うときにホワイトボードを活用する。（小中高 工夫例 58）

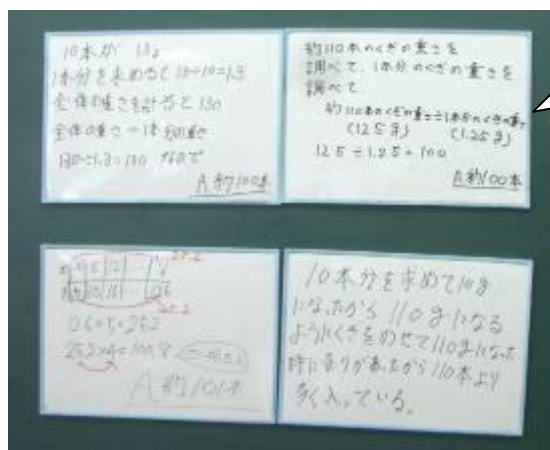
◆工夫例 57 「大切な用語をカードにする」



《算数（小学校3年生）》

数量関係が分かりにくいのでカードを作り、それを動かしながら考えさせるようにします。その結果、関係性の違いを理解しやすくなります。

◆工夫例 58 「小集団で話し合うときにホワイトボードを活用する」



《算数（小学校6年生）》

ある課題に対して、個々の考えを出し合って、解決方法等をついにまとめます。発表をするときは、ホワイトボードに書いたものを見せながら説明することもできます。

一人に一つずつホワイトボードを渡し、そこに自分の考えを書かせてからグループで話し合わせると、活発な意見が出やすくなります。